



# 入選 (小学生)

ばあちゃん

うめぼし

ずつと  
たべたいな

新町小学校 一年生 川俣 芽生奈

審査委員 青梅市俳句連盟 菅原会長 講評

大好きなおばあちゃんの漬けたうめぼしだからこそ、ずつと食べたいのでしょね。長生きしてね、というやさしい気持ち、うめぼしという意外な素材を通して伝わってきます。

ばあちゃん  
うめぼし  
ずつと  
たべたいな

芽生奈 句

青梅市書道連盟 栗原会長に御協力いただき、表彰式にて短冊をお渡ししました。



# 入選 (小学生)

かたつむり

うずまきのなか

おひるねね

河辺小学校 一年生 吉野 千咲稀

審査委員 青梅市俳句連盟 菅原会長 講評

かたつむりをじっと見えています。なかなか動きません。まだ見えています。それでも動きません。どうしたのでしょうか。そうか、今はおひるねの時間なのね、と納得したのでした。

かたつむりうずまきのなかおひるねね

千咲稀 句

青梅市書道連盟 栗原会長に御協力いただき、表彰式にて短冊をお渡ししました。



# 入選 (小学生)

ミニトマットに

あめのほうせき

いらってる

第四小学校 二年生 高橋 幸平

審査委員 青梅市俳句連盟 菅原会長 講評

雨の中というより、雨上がりを思いました。畑でしょうか。プランターでしょうか、ミニトマットについての雨つぶが光っています。きらきらと、まるで宝石のように感じたのでした。

ミニトマットにあめのほうせきついでいる

幸平句

青梅市書道連盟 栗原会長に御協力いただき、表彰式にて短冊をお渡ししました。



# 入選 (小学生)

日がくれて

海きらきらと

みかん色

新町小学校 二年生 成瀬 美佳

審査委員 青梅市俳句連盟 菅原会長 講評

日没後すぐなのでしよう。空の明るさでみかん色に染まった海が、きらきらとかがやいています。みかん色は季語にはなりません、みかんが色づく頃の海辺の景と解釈しました。

日がくれて海きらきらとみかん色

実佳 句



# 入選 (小学生)

せをただし

いどむ書きぞめ

三年生

藤橋小学校 三年生 須郷 雄大

審査委員 青梅市俳句連盟 菅原会長 講評

書きぞめのぴりっとした空気感と、それにいどむ前向きな姿勢が伝わってきます。そして主役は三年生です。「せ」は漢字にすると背になるのですが、ここは姿勢と解しました。

せをただし  
いどむ書きぞめ  
三年生

雄大句

青梅市書道連盟 栗原会長に御協力いただき、表彰式にて短冊をお渡ししました。



# 入選 (小学生)

## 夏の川

きれいなうろこ

ひかっている

第三小学校 三年生 榎本 帆花

審査委員 青梅市俳句連盟 菅原会長 講評

大川というより小川を想像しました。霞川かもしれませぬ。群れをなして泳いでいるアブラハヤでしようか、夏の日差しを受けて、くねるだびにキラツ、キラツと光るのでした。

夏の川きれいなうろこひかっている

帆花句

青梅市書道連盟 栗原会長に御協力いただき、表彰式にて短冊をお渡ししました。



# 入選 (小学生)

夏風よ

ぼくの打球を

スタンドへ

新町小学校 四年生 稲塚 來己

審査委員 青梅市俳句連盟 菅原会長 講評

試合は接戦、ここでホームランが出れば一発逆転、そんな場面かもしれません。神だのみならぬ風だのみです。こうしたおどけというかしやれも、俳句表現のおもしろさの一つです。

夏風よ  
ぼくの打球を  
スタンドへ

來己句

青梅市書道連盟 栗原会長に御協力いただき、表彰式にて短冊をお渡ししました。



# 入選 (小学生)

せみの音で

体感温度

プラス二度

霞台小学校 四年生 五野上助

審査委員 青梅市俳句連盟 菅原会長 講評

セミの声は、たしかに暑苦しさを増加させます。作者はそれを、「体感温度でいえばプラス二度だね」としやれてみせました。どんなセミが暑苦しく感じるかは、人それぞれですね。

せみの音で体感温度プラス二度

助 句

青梅市書道連盟 栗原会長に御協力いただき、表彰式にて短冊をお渡ししました。





# 入選 (小学生)

## 雷の

きよりをかぞえる

### 五秒間

霞台小学校 五年生 相川 大輝

審査委員 青梅市俳句連盟 菅原会長 講評

ぴかっとイナズマが光ってゴロゴロと雷が鳴り出します。その間が長いほど雷は遠いわけですが、その間は五秒だったというわけです。この句も、しゃれのよくきいた一句です。

雷のきよりをかぞえる五秒間

大輝句

青梅市書道連盟 栗原会長に御協力いただき、表彰式にて短冊をお渡ししました。



# 入選 (小学生)

## 雨宿り

もみじうたれる

雨の音

友田小学校 五年生 永井 絆菜

審査委員 青梅市俳句連盟 菅原会長 講評

お堂の軒下とかを想像してみました。目の前には紅葉が広がっています。それを打つ雨の音がだんだんと激しくなるのでした。中七を「もみじをうちし」とする方法もありますね。

雨宿りもみじうたれる雨の音

絆菜句



# 入選 (小学生)

青空と

水面にうつる

姫路城

第四小学校 六年生 奥村 美柚

審査委員 青梅市俳句連盟 菅原会長 講評

広がる青空と水面に映る姫路城の対比、または青空と共に水面に映る姫路城、どちらも想像されます。読み手の想像でかまわないと思います。修学旅行の思い出の「コマ」でしようか。

青空と水面にうつる姫路城

美柚句

青梅市書道連盟 栗原会長に御協力いただき、表彰式にて短冊をお渡ししました。



# 入選 (小学生)

ドキドキと

教科書の匂い

新学期

藤橋小学校 六年生 須郷 希美

審査委員 青梅市俳句連盟 菅原会長 講評

新学期は二学期も三学期もあり、季語にはなっていないかもしれませんが、ドキドキ、教科書の匂い、から新学年と解しました。この匂いの場合、中八の字余りは七音として読んでいいと思います。

ドキドキと教科書の匂い、新学期

希美句

青梅市書道連盟 栗原会長に御協力いただき、表彰式にて短冊をお渡ししました。